

ともづな

www.masaru-knet

第43号

045-781-9580

発行 自由民主党 横浜市議員団
編集 黒川まさる 政務調査事務所



黒川市議も
神輿好きです。

3月17日(日) 11時20分

10年ぶりに金沢の神輿が集結!

金沢区制70周年を記念して、金沢区の神輿パレードが復活することになりました。金沢区内にはたくさんのお神輿がある中、区内の有志のみなさんが金沢区制70年の節目の年にお神輿でお祝いをしようと実行委員会を立ち上げてくれて実現するものです。

今回のパレードに参加するお神輿は、富岡七ヶ町、谷津町内会、寺前八幡神社神輿保存会、

洲崎神社神輿保存会、瀬戸神社神輿保存会、釜利谷町内会連合会、三艘神輿保存会から全部で7基。金沢病院隣の走川公園に集結して、町屋神社前から旧道に入り、寺前八幡神社前から金沢区役所に至る約800メートルを練り歩きます。

「金沢区内の各地から神輿が集結してのパレードは10年振りのことです。私もお祭り好きの一人として、尽力してくれ



金沢区内各地の
神輿が集結

たまみなさんに感謝して、当日は多くの区民と盛り上げたいと思います。」と黒川市議は笑顔で語ってくれました。

ラグビーW杯を盛り上げるには…

いよいよ9月、ラグビーワールドカップが日本にやってきます。横浜国際総合競技場(日産スタジアム)では全部で7試合、21日はいきなり強豪同士のニュージーランドVS南アフリカ、22日は日本と同じグループの強豪対決アイルランドVSスコットランド、10月12日はラグビー発祥の国イングランドVSシャンパンラグビーのフランス、13日はおそらく決勝トーナメント進出

のかかる日本VSスコットランドそして準決勝二試合と決勝戦。まさに横浜での試合は大会屈指の好カードばかりです。

このラグビーW杯を横浜全体で盛り上げるために黒川市議は二つの重要な提案をしています。ひとつ目はパブリックビューイング。ワールドカップ期間中はみなとみらいの臨港パークに設置されたファンゾーンで生中継を観戦することができます。しかし、370万年横浜でこの一か所では少な過ぎます。現在、もっと市内の各地にファンゾーンを設置するか、パブリックビューイングを認めるよう、運営主体のワールドラグビーと交渉中です。例えば、南部市場に新しく出来る



賑わいエリアや、今年の夏にすでに成功させている八景島などは有力な候補地です。

もう一つは、アイルランドとスコットランドのキャンプ地として決まっている関東学院大学と横浜市立大学での子供たちとの交流プログラムです。2002年のサッカーワールドカップではキャンプ地とチームの交流が話題になりました。その再現を金沢区でぜひと、提案しています。



昨夏の八景島のパブリックビューイングには数百人のラグビーファンが集いました。

子供の命を守るのは私たちの責任です。

父親からの暴力を学校に訴えていたのに最悪の結果となった千葉県野田市の小学生の虐待死事件。昨年は目黒区でも5歳の女の子が虐待で命を失いました。児童虐待の相談・通報件数も急増しており、子供の命が危険にさらされています。

黒川まさる市議は、6年前からこのような痛ましい虐待事件を繰り返さないために『横浜市子供を虐待から守る条例』を仲間の議員とともに策定し、常勤の弁護士職の採用を訴え続けていました。横浜市は、弁護士とはいつでも相談できる体制が整っており、常勤で雇用する必要はない。との見解でした。しかし、度重なる虐待事件や、小学校でのいじめへの対応などを、黒川市議はこども青少年教育常任委員会ですつこく追及し、ついに来年度予算では、常勤の弁護士を採用することが決定しました。

虐待対応専門の弁護士を採用することで、児童相談所のスタッフは法律を盾に虐待が疑わしい家庭に対して毅然とし

31年度予算に常勤の弁護士の採用が決定。
主な取組内容等
増加する児童虐待対応と支援強化のための再整備を行います。
・西部児童相談所の再整備に係る実施設計
・北部児童相談所のレイアウト変更
児童相談所の法的対応力のより一層の強化のため、中央児童相談所に弁護士1名を常勤配置します。

た態度で臨め、普段からも法律的な研修を受けて対応力を高められます。さらに職員一人当たりの対応件数が多すぎるとの指摘に対しても、特に重篤で注意を要する案件は弁護士を中心にプロジェクトで対応し、命にかかわるほどではない案件と分けることで職員の負担はかなり軽減されます。

「最近の報道でようやく常勤の弁護士の採用が取りざたされるようになった。横浜市が来年度から虐待対応専門の弁護士を採用することで、児童相談所のスタッフの負担も軽減されるだろう。しかし、児童虐



待の専門的な知識を持つ弁護士の数は少なく、これからは自治体間で奪い合いになる。もう一年早ければ良かった。」と黒川市議は悔しがります。

福岡市や明石市、大津市などではすでに常勤の弁護士採用が定着しています。他都市での先進事例を参考にして、弁護士の活躍によって横浜では虐待死を1件も出さぬ対応を期待しています。

SDGs未来都市横浜の責任と約束。

新しい横浜市のマニフェストが完成しました。今回の目玉は、横浜市政の政策課題を、国連の持続可能な開発目標であるSDGsに準拠させたことと、AIを駆使してマニフェストを説明してくれるチャットボットのサンキッズが活躍してくれていることです。

黒川まさる市議は、よこはま自民党の広報委員長として、これらの取り組みを政務調査会

とともに主導し、記者発表の翌日には読売新聞と神奈川新聞が新しい政策発信の手法として記事にしてくれました。



市民に開かれた、わかりやすい政治を目指す、黒川まさる横浜市会議員に対する期待、要望、激励、メッセージなどをお寄せください。

お名前・ご連絡先

返信FAX 045-786-4310 または masaru-k.net@hb.tp1.jp
ご意見をいただいた方にはお返事をさせていただきます。
(住所・メールアドレス・FAX番号何でも結構です。)